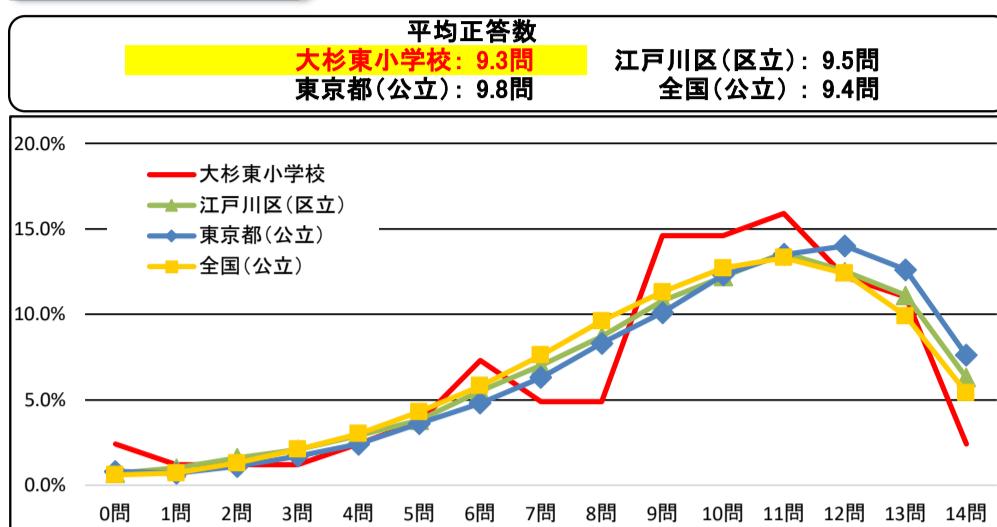


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】大杉東小学校

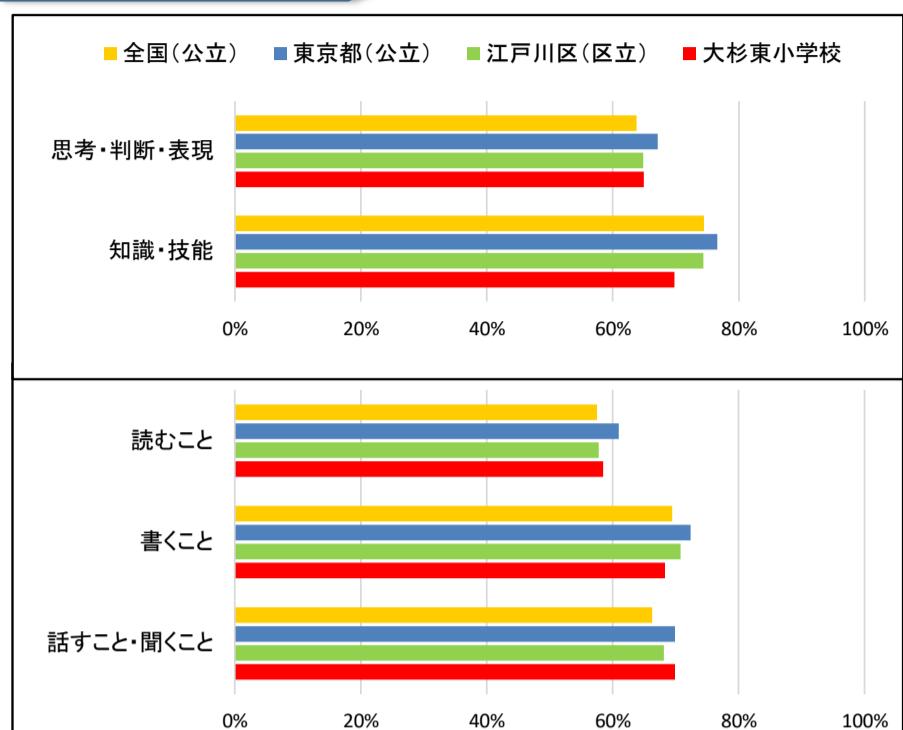
正答数分布



【平均正答率の差】

校名	平均正答率
大杉東小学校	66%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-4.0

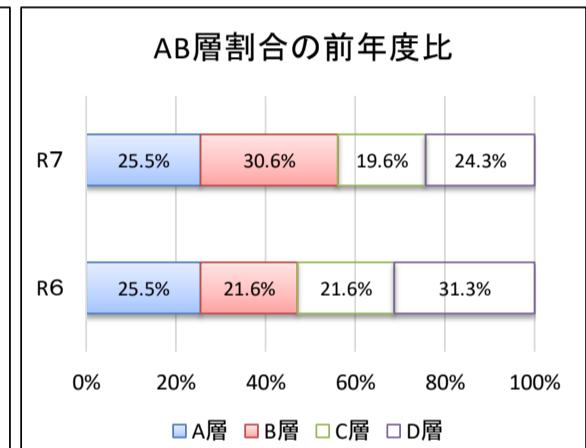
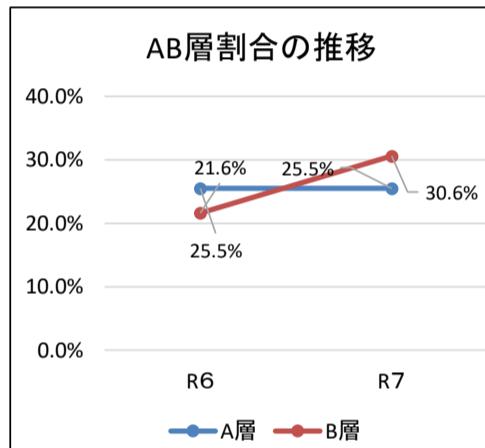
「領域別」の結果



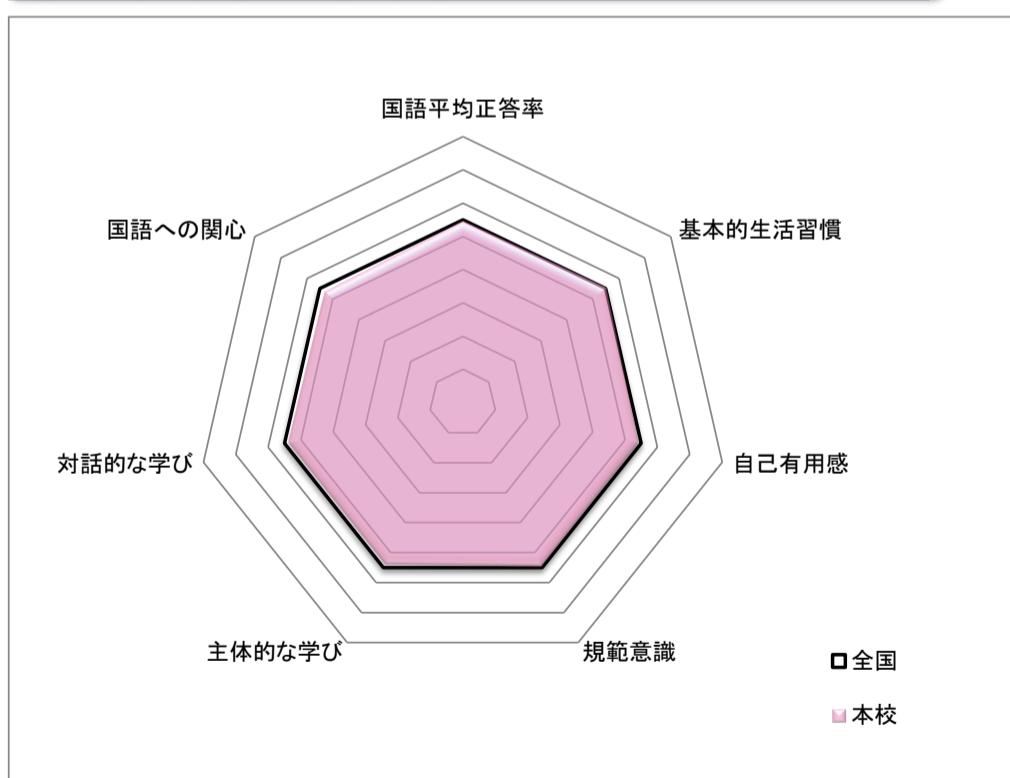
四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	A層	B層	C層	D層
	12~14問	10~11問	8~9問	0~7問
大杉東小学校	25.5%	30.6%	19.6%	24.3%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- 本校の国語の平均正答率は66%で、全国平均正答率より0.8ポイント低い。今年度のAB層の割合を見ると、昨年度に比べ、B層が9ポイント増えている。
- 自己有用感や主体的・対話的な学びについては、肯定的な回答が全国平均とほぼ同じだった。
- 「国語の勉強は好きですか。」の質問の肯定的な回答は48.2%と、全国より10.1ポイントも低い。

《家庭・地域への働きかけ》

- 読書習慣を身に付けるために、月に2回程度で読み聞かせボランティアの方に本の読み聞かせをしてもらっている。

《現状把握》

- AB層の割合と取り組み内容について
本校のAB層の割合は25.5%で江戸川区と比べ-4.5%、東京都と比べ-8.9%である。昨年度と比べるとAB層の内、A層は増減がないが、B層が+9%となっており、AB層の割合が増えた。

本校では、よむYOMUワークシートの取組を4~6年生で行っている。どの学年でもワークシートの問題を解くだけでなく、新聞記事から読み取ったこと、記事に対して考えたこと、興味をもって調べたことをノートにまとめて、「考える力」や「想像する力」の育成を図っている。

《学校の取組》

- 教員の指導力向上
・校内で主幹教諭が授業を公開し、他教員が参観することで、指導について深める取組を行っている。
- ・国語の意見交流や振り返り等を行う際に、タブレットを活用する機会が多いが、操作方法や活用方法を研修で確認している。

《基礎学力の保障》

- ・本校では、4~6年生で「よむYOMUワークシート」の取組を行っている。
- ・各学年で単元ごとに漢字小テストを行い、知識の定着を図っている。
- ・既習内容の復習ができるよう「ドリルパーク」を活用している。児童の課題に応じて、自主学習として取組を行っている。

《学習習慣の確立》

- ・年に3回家庭学習週間を設定し、家庭と連携しながら学習習慣の確立を図っている。
- ・授業内で扱う語句の意味を、教室前に置いている国語辞典やタブレットを活用して調べる習慣を身に付けさせている。
- ・週に2回朝読書を行うことで読書をすることを習慣化し、語彙力や想像力、様々な知識等を養っている。

《AB層の育成》

- ・説明文の学習については、「江戸川スタンダード」を基本とした授業展開を行い、学習の流れ、学び方を身に付けさせている。
- ・家庭学習での取組を自主学習とすることで、自身の課題に取り組む機会を作っている。
- ・自由進度学習を積極的に取り入れ、自分のペースで進めていき、学んだことを深める時間を作ることができる授業展開を行っている。